

まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版ver.1.0）の概要

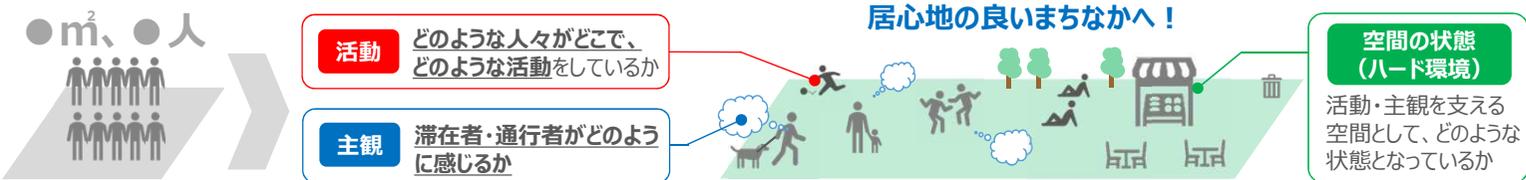
- 本指標*は、**居心地の良い空間が形成されているかどうかを、より人間らしい視点から把握**するための指標です。
- これまで多くのまちなかの調査では、ハードの整備状況や滞在者・通行者数により、まちなかの状態を把握していましたが、本指標は、これらに加え、滞在者・通行者が**どのように場を利用しているか【活動】、どのように感じるか【主観】**に着目し、それらを「**居心地の良さの4要素**」に分類して計測します。
- 本指標をKPIとして高頻度でPDCAを回すことで、本質的に居心地が良く、使われるまちなかになることが期待されます。また、本指標により、まちづくりの取組から得られた効果をこれまでよりもわかりやすく多角的に可視化することで、**活動意義や必要性について共感の輪を広げ**ることができます。

本指標を用いて「まちなかの居心地の良さ」を様々な観点から計測し、皆さんの空間を見直してみませんか？

*1 令和元年度に公表した、まちなかの居心地の良さを測る指標（案）をベースに、実際に活用した方々の声を参考にして作成

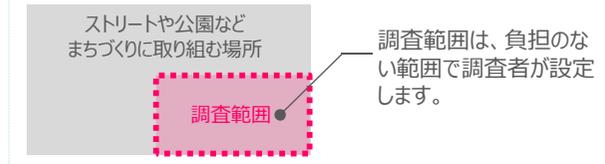
■ 目的・基本的な考え方

都市空間の状態を、面積・人数などの「量」だけで捉えるのではなく、**【活動】や【主観】などの「質」を可視化**し、その場の強みや弱みを分析・考察して改善を重ねることで、**単なる空間（スペース）から居心地の良いまちなか（プレイス）へ場を育てます。**



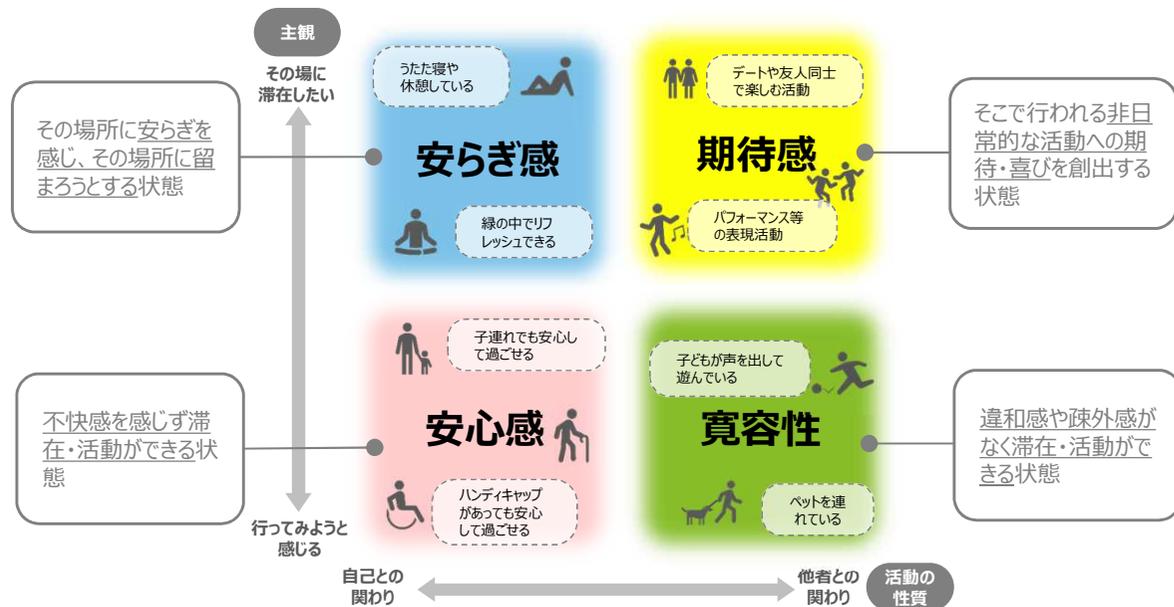
■ 活用主体・対象地

地方公共団体や民間まちづくり団体等の**まちづくりの実践者**が、**まちづくりに取り組む場所**で活用することを想定しています。



■ 居心地の良さの4要素

本指標は、居心地の良さを**安心感・寛容性・安らぎ感・期待感**の4つにグルーピングし、構成します。居心地の良さの4要素には各8項目の指標を設定し、項目ごとに**【活動】と【主観】**を計測します。



▼ 計測イメージ *2 滞在者・通行者がどのように感じるか、調査者（2～3人）の主観で代替



活動（調査時に見られる滞在者・通行者の活動）

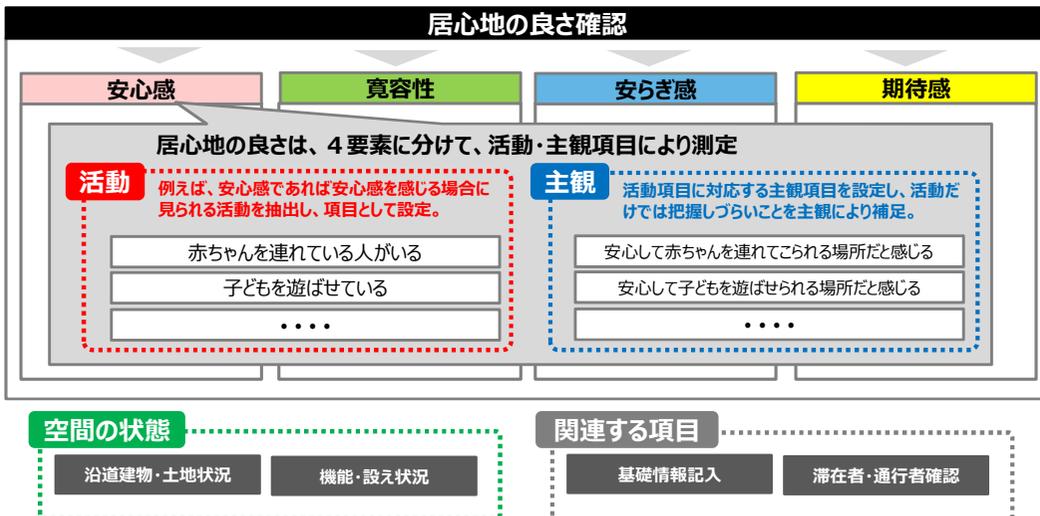
- 安心感#2**：子どもを遊ばせている
- 寛容性#2**：子どもが声を出して遊んでいる
- 期待感#4**：何かに人が群がっている
- 安らぎ感#1**：ぼーっとしている人がいる
- 安らぎ感#3**：横になって過ごしている人がいる
- 安らぎ感#5**：花壇や緑などのそばでたずむ人、眺める人がいる

主観（調査者*2が滞在・通行して感じられること）

- 安心感#2**：安心して子どもを遊ばせられる場所だと感じる
- 寛容性#2**：子どもが声を出して遊べる場所だと感じる
- 期待感#4**：面白そう・オシャレ・雰囲気の良い人がいる場所だと感じる
- 安らぎ感#1**：ぼーっとできる場所だと感じる
- 安らぎ感#3**：横になってくつろぎたい場所だと感じる
- 安らぎ感#5**：緑などに囲まれて自然を感じられる場所だと感じる

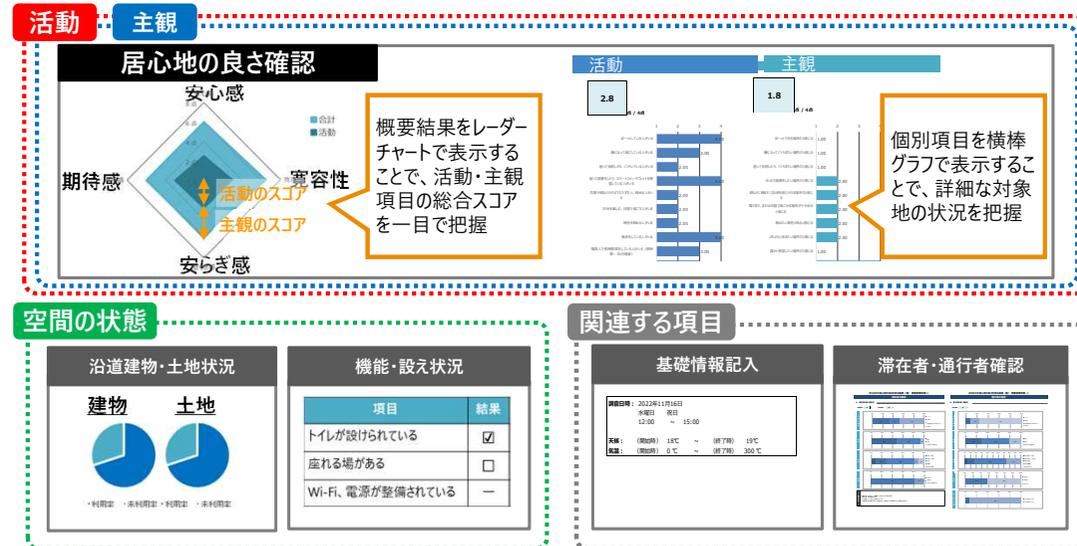
まちなかの居心地の良さを測る指標（改訂版ver.1.0）の概要

■ 調査項目の構成



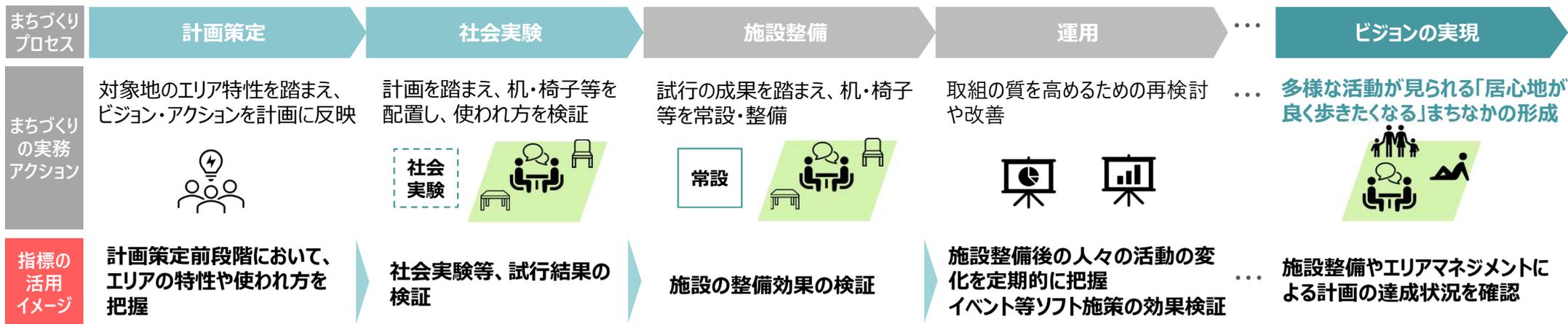
※空間の状態・関連する項目は、参考情報として記録します。

■ アウトプットのイメージ



■ まちづくり活動のプロセスに応じた活用イメージ

まちづくりの各段階において、本指標によりまちなかの状態を定期的・定点的に把握することで、試行・検証・改善の一助となることを想定しています。本指標は、異なる都市間の比較のためではなく、特定のエリアで継続的に行う取組を向上させるためのツールです。



ステークホルダーに結果を伝えコミュニケーションをとる
(資金提供者、地域住民)